

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20320111

研究課題名(和文) 中・近世ベトナムにおける権力拠点の空間的構成

研究課題名(英文) Spatial Composition of Power Centers in Medieval and Early-Modern Vietnam

研究代表者

桃木 至朗 (MOMOKI SHIRO)

大阪大学・コミュニケーションデザイン・センター・教授

研究者番号：40182183

研究成果の概要(和文)：本研究は、現在の北部・中部ベトナムに分布する、タンロン(ハノイ)以下の王朝時代の権力拠点について、文献研究と現地踏査を通じて、立地や諸機能の配置を検討したもので、各時期のタンロンの空間的分節化や首都機能の城外における広がりについて、中国など近隣諸国の都城の新研究を参考にしながら新しい理解を提出したほか、チャンパーの都邑、大越の副都や地方の重要な拠点などに関しても、多くの新情報・新資料を収集した。

研究成果の概要(英文)：We studied the location and functions of medieval and early modern power centers in present-day northern and central Vietnam, the most important center being Thang Long (Hanoi). For each center, we made literary research and field surveys. Referring recent research of Chinese and other East/Southeast Asian capitals, we proposed a number of new understandings of the spatial segmentations and the disposition of functions outside the citadel wall of Thang Long. Besides, we collected abundant materials and information of other power centers, including those of Champa.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2009年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2010年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
年度			
年度			
総計	14,400,000	4,320,000	18,720,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：東南アジア史、ベトナム前近代史、チャンパ史、歴史地理学、タンロン遺跡

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 桃木・八尾・嶋尾らのベトナム王朝権力の研究、(2) 桜井由躬雄がリードし本研究のメンバーの多くが参加したバックコック村調査に代表される農村歴史調査、(3) 山形らのチャーキウ調査やベトナム側のタンロン(ハノイ) 皇城遺跡発掘など、考古学と都市研究の発展、等々で積み重ねられた実績をもとに、本研究は発案された。

## 2. 研究の目的

本研究は、10世紀前後から19世紀前半までの「独立王朝期」ベトナムにおける権力構造の歴史の変遷を研究する取り組みの一環として、狭義の都市以外も含む支配拠点の立地や拠点の支える諸機能の空間配置(都市の場合も城壁内だけに局限されない)という未開拓の領域の解明を試みた。

## 3. 研究の方法

文献・地図研究と現地調査を通じた事例研究を、北部・中部のそれぞれで実施した。北部では中世（10～14世紀）と近世（15～19世紀）、中部ではチャンパー時代（14世紀以前）と大越時代（おおむね15世紀以降）に時代を分けて、それぞれ検討をおこなった。研究に際して、都市史と農村史の架橋、東アジア・東南アジアの都城・都市研究の成果の応用などに配慮した。

#### 4. 研究成果

(1)本研究では、代表・分担者ほか合計11次の現地調査をおこない、タンロン（ハノイ）や西都（胡朝城）、フエのような本格的な都城に加えて、10世紀のホアルーや16～17世紀広南阮氏の諸宮のような軍事政権の中心、李朝の天徳府（バクニン省）、陳朝の天長府（ナムディン省）、黎朝の藍京（タインホア省）などの副都、それにゲアン省のラムタイン、バクザン省の諒州申氏の館跡など若干の地域の地方城郭や地方豪族拠点を調査し、それぞれの立地や現在の調査・保存状況など多くの貴重な資料・情報を収集した。

(2)タンロンについて、桃木・八尾の論文などのかたちで、ベトナムの学界とは違った新しい論点・仮説を提出した。たとえば①李朝の宮禁空間は1010年に築かれた「昇竜城」の範囲より狭く、したがって黎朝の宮城より狭い。②李朝で宮禁空間から截然と分離していない行政空間は、黎朝でもなお狭い、③行政・宗教・宴遊空間まで囲む「昇竜城」（竜城）ないし「皇城」は、他の城壁より高く堅固で、陳朝初期までに西方に拡張されている。④「昇竜城」の外側（城外）は、李朝初期に土城（大羅城）で囲まれ、「昇竜京」には含まれたが、それが唐宋のモデルに従い「京城」の内部と観念されたのは、おそらく陳朝以降である。⑤李陳朝の隷属民村落群、黎朝の屯田所など、大羅城よりさらに外側に都城と皇帝権力の維持にとって重要な村落群が配置されており、都城機能を考えるにはここまで視野に入れる必要がある、などが主なものである。これらの成果や、豊田の中国・日本都城に関する最新のまとめは、ベトナム側でも歓迎され、2010年のタンロン1000年祭に向けたいくつかの論集や、2010年10月の1000年祭記念国際シンポジウムなどでの、ファン・ファイ・レー教授を筆頭とする歴史研究者の議論にも取り入れられている。

(3)山形は長年の中部の調査を続行し、チャーキュウ以外にティナイなどビンディンのチャンパー都市をはじめ、各地の遺跡・遺物を調査した。その新知見を論文などのかたちで次々発表している。

(4)研究成果の一部は、2008年12月の第3回ベトナム学国際会議（ハノイ）、2009年5月の第1回アジア世界史会議（大阪）などで報告・討論された。

(5)本研究には、ベトナム史専攻のポスドク・大学院生を研究協力者・調査補助要員として参加させただけでなく、豊田裕章（国際日本文化研究センター共同研究員、古代中国・日本の都城）、河上麻由子（日本学術振興会特別研究員PD、中国皇帝権と周辺諸国との関係）、内野花（大阪大学特任講師、東アジア文化交流史）などもともと別の専門領域をもつポスドク研究者を研究協力者として調査・研究に参加させ、いわば副専攻的にベトナム史を研究させようと試みた。そこから本人たちの新しい研究や、ベトナム専門家との共同研究が生まれつつあり、個人の専門性にこだわりすぎる日本の学界のありかたに一石を投じる効果があったと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11件）

- ①嶋尾稔、17世紀後半ベトナム北部村落における「売亭文契」に関する覚書、慶應義塾大学言語文化研究所紀要、42号、2011、近刊予定により頁未定、査読無
- ②桃木至朗、大越（ベトナム）李朝の昇竜都城に関する文献史料の見直し、待兼山論叢史学編、査読無、44巻、2010、pp. 1-29、
- ③八尾隆生、ベトナム陶磁とその故郷、地域アカデミー2009（広島大学大学院文学研究科歴史文化講座公開講座報告書）、査読無 2010、pp. 53-63
- ④嶋尾稔、阮朝硃本と『大南寔録』、慶應義塾大学言語文化研究所紀要、査読無、41巻、2010、pp. 205-224
- ⑤嶋尾稔、『寿梅家礼』に関する基礎的考察（四）、慶應義塾大学言語文化研究所紀要、査読無、40巻、2009、pp. 247-257
- ⑥仁木宏、美濃加納楽市令の再検討、日本史研究、査読無、557巻、2009、pp. 1-25
- ⑦京楽真帆子・伊藤哲司・岩佐淳一、ベトナムにおける戦争と女性一反戦運動と「英雄の母」一、人間文化、25号、査読無、2009、pp. 15-25、
- ⑧蓮井誠一郎・伊藤哲司・木村競・京楽真帆子、「地域コンフリクトの緩和」を理解する枠組み、茨城大学人文学部紀要 社会科学論集、48号、査読無、2009、pp. 111-126
- ⑨伊藤哲司・岩佐淳一・京楽真帆子、聞き書きノート：ベトナム・フエの元反戦運動家

たち、茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション学科論集、7号、査読無、2009、pp. 21-44、

- ⑩ 嶋尾稔、ベトナムの伝統的私塾に関する研究のための予備的報告、東アジア文化交渉史研究別冊、査読無、2巻、2008、pp. 53-66
- ⑪ 吉開将人、漢初の封建と長沙国、日本秦漢史学会会報、査読無、9巻、2008、pp. 145-174

[学会発表] (計 19件)

- ① Momoki Shiro, New Lights on the Charter Polity of Dai Viet : A Comparative Approach with Goryeo and Other Small Empires in Southeast and Northeast Asia, International Workshop: Empires and Networks: Maritime Asian Experiences 9<sup>th</sup> to 19<sup>th</sup> centuries, Feb, 21, 2011, Singapore: Institute of Southeast Asian Studies.
- ② Momoki Shiro, A Spatial Analysis of Thang Long Capital during the Ly Period through Re-exploitation of Written Sources, International Conference on Southeast Asian Studies: Beyond Boundaries : Southeast Asian History, Culture and Society, Nov. 29, 2010, Seoul KOR EA: So gang University:
- ③ Momoki Shiro, Các công trình được xây đắp trong và ngoài kinh đô Thăng Long thời Lý, Hội thảo khoa học quốc tế: Phát triển bền vững thủ đô Hà Nội văn hiến, anh hùng, vì hòa bình, Oct. 8, 2010, Hanoi Vietnam: Internaitonal conference Centre.
- ④ 山形真理子、オーストロネシア仮説と環南シナ海地域の考古学、第64下位日本人類学会伊達大会シンポジウム「東南アジア・オセアニア地域の人類集団の移住史」、2010年10月2日、伊達歴史の杜カルチャーセンター：北海道
- ⑤ 山形真理子、林邑の国際化と地方化—都城遺跡出土遺物の検討—、第55回国際東方学者会議シンポジウムI「地方化を通じた国際化—交趾・林邑・扶南の新出考古資料の考察—」、2010年5月21日、日本教育会館：東京
- ⑥ Yamagata Mariko, A chronological view on the succession from Sa Huynh to early state formation, The 19<sup>th</sup> Indo-Pacific Prehistory Association Congress, Nov. 29 -Dec. 5, 2009, Hanoi : Vietnam Academy of Social Sciences.

⑦ 嶋尾稔、ベトナムにおける朱子家礼の受容と展開、国際シンポジウム『朱子家礼』と東アジアの文化交渉、2009年11月3日、韓国国学新興院、韓国

- ⑧ Hasuda Takashi, Waterway Control and Coastal Village in Central Vietnam during the Seventeenth and Eighteenth Centuries, CAPAS-CSEAS 2009 International Symposium on Maritime Links and Trans-nationalism in Southeast Asia: Past and Present, Oct. 28, 2009, Taiwan: Academia Sinica
- ⑨ Yamagata Mariko, Iron Age human movements beyond the South China Sea: Austronesian hypothesis and the archaeology of central Vietnam, The CAPAS-CSEAS 2009 International Symposium on Maritime Links and Trans-nationalism in Southeast Asia: Past and Present, Oct. 27-28, 2009, Taiwan: Academia Sinica.
- ⑩ 嶋尾稔、ベトナムにおける家礼の受容と展開、広島史学研究大会、2009年10月24日、広島大学
- ⑪ 仁木宏、都市史研究からみた石見銀山、2009年度島根史学会大会、2009年9月5日、島根県民会館
- ⑫ Kyoraku Mahoko, Gender in war :A case in Vietnam War, Asia Pacific Peace Research Association Conference, Sept. 12, 2009, Taiwan: Hualien.
- ⑬ Momoki Shiro, How Can Research and Education in the History of Vietnam and Southeast Asia Develop in Northeast Asian Countries?: A Case Study in Japan, Third International Forum on Historical Reconciliation in East Asia: Promoting Interest in and Understanding of History of Southeast Asia including Vietnam, Aug. 28, 2009, Seoul: Sejong Hotel.
- ⑭ Yamagata Mariko, Comparative study between Sa Huynh and Sa Huynh related pottery in Southeast Asia, The International symposium on 100 years - discovery and research of Sa Huynh culture, 2009年7月22~24日、Quang Ngai Provincial Museum, Vietnam
- ⑮ Momoki Shiro, Revitalizing Historical Research and Education : A Challenge from Osaka, Plenary Panel Session: Educations of World History: A Comparative Perspective, 1<sup>st</sup> Congress of AAWH (Asian Association of World Historians), May 31, 2009, Osaka University Nakano-shima Center, Osaka.
- ⑯ 山形真理子・田中和彦・俵寛司・Bui Chi

Hoang、環南シナ海地域の鉄器時代甕棺葬、日本考古学協会第75回総会研究発表、2009年5月31日、早稲田大学、東京

- ⑰ Yamagata Mariko and Bui Chi Hoang, Revising, “Sa Huynh culture; Kalanay Pottery Tradition”: comparative study between Hoa Diem in central Vietnam and Kalanay in central Philippines, 12th International Conference of the European Association of Southeast Asian Archaeologists, Sept. 1-5, 2008, the Netherland: Leiden University.
- ⑱ Momoki Shiro, Mot so cau hoi moi ve kinh do Thang Long thoi Ly-Tran: Khai thac lai thu tich co, The 3<sup>rd</sup> International Conference of Vietnamese Studies, Dec. 4~7, 2008, Hanoi Vietnam: My Dinh International Congress Hall.
- ⑲ Yao Takao. So thao nghien cuu thanh Thang long thoi Le so, The 3<sup>rd</sup> International Conference of Vietnamese Studies, Dec. 4~7, 2008, Hanoi Vietnam: My Dinh International Congress Hall.

[図書] (計 15件)

- ① 桃木至朗、大阪大学出版会、中世大越国家の成立と変容—地域世界の中の李陳時代ベトナム史—、2011、473p
- ② Momoki Shiro、Singapore University Press、*Southeast Asia in the 15<sup>th</sup> Century and the China Factor*、126-153、2010
- ③ 八尾隆生、汲古書院、近世の海域世界と地方統治 (東アジア海域叢書 1)、2010、203-229、
- ④ 嶋尾稔、汲古書院、近世の海域世界と地方統治 (東アジア海域叢書 1)、2010、273-330、
- ⑤ 嶋尾稔、慶應義塾大学言語文化研究所 (慶應義塾大学出版会)、アジアの文人が見た民衆とその文化、2010、101-143、
- ⑥ 山形眞理子、同成社、南海を巡る考古学、2010、95-129、
- ⑦ Mariko Yamagata、River Books、50 Years of Archeology in Southeast Asia: Essays in Honour of Ian Glover、2010、194-205、
- ⑧ 山形眞理子、高志書院、海の道と考古学—インドシナ半島から日本へ、2010、194-205、
- ⑨ 山形眞理子、弘文堂、アジア学のすすめ第3巻 アジア歴史・思想編 (早稲田大学アジア研究機構叢書)、2010、133-159、
- ⑩ 桃木至朗、大阪大学出版会、わかる歴史、面白い歴史、役に立つ歴史—歴史学と歴史

教育の再生をめぐって、2009、270p、  
⑪ 山形眞理子、東アジアの歴史・民族・考古 (早稲田大学アジア研究機構叢書人文学篇)、雄山閣、2009、pp. 320-354、

⑫ 桃木至朗、大阪大学出版会、歴史学のフロンティア—地域から問い直す国民国家史観、2008、pp. 191-212、

⑬ MOMOKI SHIRO、Institute of Vietnamese Studies and Development Science, *20 nam Viet Nam hoc*, Hanoi: The gioi publishing house, 2008, pp. 330-341

⑭ YAO TAKAO、Institute of Vietnamese Studies and Development Science, *20 nam Viet Nam hoc*, Hanoi: The gioi publishing house, 2008, pp. 342-355

⑮ 仁木宏・松尾信裕 (編)、高志書院、信長の城下町、2008、304p.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

桃木 至朗 (MOMOKI SHIRO)  
大阪大学・コミュニケーションデザイン・センター・教授  
研究者番号: 40182183

### (2) 研究分担者

八尾 隆生 (YAO TAKAO)  
広島大学・文学研究科・教授  
研究者番号: 50212270  
山形 眞理子 (YAMAGATA MARIKO)  
昭和女子大学・国際文化研究所・研究員  
研究者番号: 90409582  
嶋尾 稔 (SHIMAO MINORU)  
慶應義塾大学・言語文化研究所・教授  
研究者番号: 90255589

### (3) 連携研究者

吉開 将人 (YOSHIKAI MASATO)  
北海道大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号: 80272491  
久保 純子 (KUBO SHUMIKO)  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  
研究者番号: 90275967  
仁木 宏 (NIKI HIROSHI)  
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 90222182  
京樂 真帆子 (KYORAKU HAHOKO)  
滋賀県立大学・人間文化学部・教授  
研究者番号: 00282260  
松尾 信之 (MATSUO NOBUYUKI)  
名古屋商科大学・経営学部・教授  
研究者番号: 40308838

(4) 研究協力者

蓮田 隆志 (HASUDA TAKASHI)

京都大学・東南アジア研究所・研究員

研究者番号：20512247